

先日、学年集会で進路についての話をしました。みなさんにとっては、自分の進路を決めるというのは人生で初めての経験になります。だからこそ不安になったり、悩んだりすることは当然あると思います。そこで目の前の現実から逃げ出さずに自分と向き合い、「自分が本当に選択すべき進路はどんなものなのか」を真剣に考えて決定していきましょう。進路実現に向けて大切にしたいことは以下のことです。

○自分で決定をする。

保護者の方や先生、塾の先生、友だちなど周りの人の意見はもちろん大切です。自分にはない視点や知らなかったことも分かるかもしれません。だから周りの人の意見を素直に受け入れる気持ちはもってほしいと思います。特に保護者の方とは、じっくりと相談することが必要です。

でも、最後に決めるのは、自分です。「先生に言われたから・・・」「親が言うから・・・」という気持ちで決定するのは自分が納得できる進路選択ではありません。そんな選択をすると、うまくいかなかった時に、周りの人のせいにしてしまう結果にもつながります。周りの人のせいにしても結局返ってくるのは自分です。周りの人の意見も参考にしながら、他の誰でもない自分が「この進路先で頑張りたい」という気持ちを確かにして進路決定をしていけるようにしましょう。自分の進路は自分で決定することが大切です。

○安易な道に逃げない。

本当は一番選択したい進路先があるのに、「自分の学力はこのくらいだから・・・」「どうせ無理だろう」と、自分を納得させ安易な道に逃げてはいけません。自分の夢を叶えるため、本当に行きたい進路を選択するために、学校や家庭での学習や毎日の生活の中で、自身で納得のいく努力を続けていくことが大切です。進路実現のために精一杯努力をしていないのに、挑戦する前からあきらめている自分がいたらもったいないです。理想は高く、安易な道に逃げないで努力をしてほしいと思います。安易な道に逃げて掴みとった進路だとしたら、たとえ合格できたとしても後悔する結果になることがあります。

進路学習は「生き方」を考える学習です。「進路」というと自分の進学先を決定することと真っ先に考えるかもしれませんが、もちろん間違いではありませんが、皆さんの人生は中学校卒業後の進学先で終わるわけではありません。大学に進学するのか、就職をするのか。進学や就職するにはどんな学習をしなくてはいけないのか、どんな能力を身に付けなくてはならないのか。そして、その先にどんな自分になっていきたいのか。といったことを進学先でも考えていく必要があります。つまり、中学校卒業後の進学先を決定することがゴールなのではなく、「将来どんな自分になりたいのか」「どんな職業に就きたいのか」を考えて見つけ、そのための道すじを考えたり、どんな努力をするとよいのかを考えたりして、進路を決定していくことが「進路学習」です。「自分で掴みとる進路」「納得できる進路選択」のために、努力をしていきましょう。先生たちは君たちを精一杯サポートします！

保護者のみなさまへ

〈奨学金の案内〉

奨学金の案内がいくつか届いております。今回は次の二つのことを紹介させていただきます。詳しい内容を知りたい方は、担任または佐藤(進路担当)までご連絡ください。

○あしなが育英会

保護者等が病気や災害(道路上の交通事故を除く)、自死(自殺)などで死亡、または保護者が著しい障害を負っているご家庭の子どもたちに奨学金を交付して、進学援助を行う制度。

○交通遺児育英会

保護者等が道路における交通事故で死亡、あるいは、重い後遺障害で働けないため、経済的理由で就学が困難な高等学校以上の生徒・学生に奨学金を貸与するもの教育の機会均等を図り、社会有用の人材を育成することを目的としている。